

# I . 総括研究報告

令和5年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金  
厚生労働科学特別研究事業  
総括研究報告書

就労選択支援従業者の養成のための研修における標準プログラムの開発についての研究（概要）

研究代表者 前原 和明（秋田大学）

研究要旨

本研究では、令和7年10月から開始する新たな就労系障害福祉サービスである「就労選択支援」の支援者の養成のための研修の標準プログラムの検討を行った。研究では、非公式的コンセンサス形成法とオープンディスカッションの技法を用いて、就労選択支援に従事する支援者の知識及びスキルについて継続的に議論した。議論を通じて得られた知識及びスキルに基づき、「標準プログラム」を作成した。今後は、この標準プログラムの内容が、「就労選択支援員養成研修」として具体化されることが望まれる。

本研究の研究代表者及び研究分担者は以下の通りである。

○研究代表者：

前原和明（秋田大学大学院・教育学研究科／教授）

○研究分担者：

・山口明乙香（高松大学・発達科学部／教授）

・野崎智仁（国際医療福祉大学・保健医療学部／講師）

縄岡好晴（明星大学・人文学部／准教授）

・西尾香織（帝京平成大学・健康メディカル学部／助教）

・後藤由紀子（筑波技術大学・障害者高等教育研究支援センター／助教）

・藤本優（大妻女子大学・人間関係学部／助教）

A. 研究の目的

令和7（2025）年10月より、新たな障害福祉サービスとなる「就労選択支援」が開始されることとなった。この就労選択支援において、就労アセスメントは、中核的な支援手法として位置づけられている。就労選択支援では、就労アセスメントの手法を用いて得られたアセスメント結果を活用して、対象となった利用者の進路選択を支援するサービスを提供する。今後は、アセスメントの結果に基づく支援の提供という観点ますます重要になっていくであろう。当然のことであるが、就労選択支援は新たに開始するサービスであるため、この就労選択支援に従事する支援者が習得すべき知識やスキルなどについて、依然として明らかになっていない。また、中核的な支援技法となる就労アセスメントの手法について、十分に

理解している支援者が多くいるとも言い難い。その意味で、今後の開始に向けて、習得すべき知識やスキルを明らかにし、適切な研修プログラムを構築していくことが必要である。

就労選択支援が形骸化することなく、適切に実施及び活用されるためには、このように就労選択支援に従事する支援者の支援の質の向上が不可欠である。そのため十分な研修内容の検討が必要であると言える。

このような背景を前提として、本研究では、就労選択支援の従業者の育成に向けた標準プログラムの開発に向けた検討を行うことを目的とする。

## B. 研究の実施経過

### 1. 研究方法論

本研究では、就労選択支援の従業者の育成に向けた研修の標準プログラムの確立に向けて、その従業者に求められる知識やスキルについて検討することを研究目的としている。この研究目的に基づき、「非公式的コンセンサス形成法による知識及びスキルの検討」、「オープンディスカッションによる就労支援の実践者等からのインフォーマル意見集約」の2つの研究を実施する。

### 2. 非公式的コンセンサス形成法

#### (1) 研究手法

本研究では、専門家が意見を交換し、合意形成を目指す非公式的コンセンサス形成法を用いる。①「就労選択支援従業者養成研修（仮称）の標準プログラム検討委員会」（以下、検討委員会とする）での議論、②就労支援及び就労アセスメントに関する理論及び実践に関する専門性を持つ研究代表者及び研究分担者から構成される事務局（研究班）

が担うエビデンスの収集、③標準プログラムの素案作成の3つの枠組みを連関させ、検討する。

#### (2) 検討委員会の構成

この形成法の妥当性を高めるために、検討プロセスの透明性及び検討の偏りの抑止、内容におけるエビデンスの考慮、想定される研修受講者の不利益の予防等に配慮する。そのため、労働（職業リハビリテーション）、障害福祉（就労支援）の研究・実践の専門家を構成員とする。

#### (3) 実施手続き

①事務局（研究班）での素案作り、②対面及びオンラインで検討委員会を開催（9月、1月）、③検討委員会での議論に対する事務局（研究班）での検討の3つの仕組みを連関させていく。

### 3. オープンディスカッション

#### (1) 研究手法

本研究では、就労支援の実践者等からのインフォーマルな形での意見収集をし、知識及びスキルの確定に活かしていくために、オープン開催の研究会でのオープンディスカッションを実施する。

#### (2) オープンディスカッションの詳細

##### 1) テーマ

2023 職業リハビリテーション実践研究サミット「就労選択支援における支援者の人材育成について考える」

##### 2) 趣旨

2025年10月の「就労選択支援」の開始に向けて、このサミットでは、就労選択支援に従事する支援者の就労アセスメントを中心とした支援のスキルや知識について参加者に対して問いかけ、今後の就労選択支援

の従業者の研修制度の内容について参加者で議論していくことを趣旨とする。

### 3) 実施の概要

実施日時は、2023年12月10日（日曜日）13時00分～17時00分とする。実施形態は、対面及びオンラインのハイブリットで実施する。参加対象者は、全国の職業リハビリテーション従業者、就労支援に携わる支援者とする。参加費は、無料とする。

#### （倫理面への配慮）

本研究における倫理的配慮として、研究協力者に対しては、研究目的を十分に説明し、依頼文に基づいて同意を得て専門家として検討委員会への協力を依頼した。

## C. 研究結果の概要

### 1. 第1回検討委員会（2023年9月11日）での検討から

第1回検討委員会を、2023年9月11日に実施した。

検討委員会の中では、これまでの法案等に示された「本人の希望／意向／ニーズの把握」、「就労能力／適性／強み／課題の把握」、「配慮の整理」、「ケース会議の運営」、「社会資源についての知識」、「雇用事例」、「結果票の作成」などの知識とスキルに加えて、「大前提としての就労選択支援の理念を従業者が共有できるということが必要である」、「本人のニーズを把握するためのニーズアセスメントのスキルが不可欠である」、「標準的アセスメントの一つである就労アセスメントシートを活用し、アセスメント、結果表の作成、ケース会議などの具体的な支援スキルを学ぶ必要がある」などの意見を得ることができた。

### 2. オープンディスカッション

2023年12月11日に「2023職業リハビリテーション実践研究サミット」をオープンディスカッションとして実施した。

オープンディスカッション後に実施したアンケートから、これまでの議論の中でも指摘されてきた利用障害者本人との協同に向けたニーズ把握のためのスキル、多機関連携のスキルなどが確認できた。また、就労選択支援の理念を遂行するために必要な情報提供を従業者ができるための知識を学ぶ機会が必要であるとの意見が確認できた。

### 3. 第2回検討委員会（2024年1月18日）での検討から

第2回検討委員会を、2024年1月18日に実施した。

検討委員会の中では、第1回及びオープンディスカッションでの議論等を踏まえて、これまでの内容を標準プログラムにまとめる具体的な議論が行われた。

また、研修効果の向上ということで、「効果的な演習の活用」、「小テスト等の研修後の到達度チェックの仕組み」などの意見も委員から得ることができた。さらに、知識に関する講義等については、「オンラインあるいはオンデマンドを活用する」ことも有効ではないかとの意見があった。これらの工夫については、更なる検討を行い、研修を有用にする観点から、実効性のある形で取り入れることが必要である。

最終的には、「就労選択支援の理念について理解する」、「就労アセスメントの目的と手法」、「ニーズアセスメントの手法」、「就労アセスメントの具体的活用」、「アセスメント結果の整理と活用」、「関係機関との連

携」を骨子として科目が整理された。

育科学部門，79，127－132.

#### D. 考察及び結論

本研究では、就労選択支援に従事する支援者が習得すべき知識とスキルについての検討を行った。検討を通じて、就労選択支援に従事する支援者に求められる知識やスキルが明らかになった。様々な観点からの検討を通じて考えられた幅の広い知識とスキルに基づき、適切な研修プログラムを構築していくことが必要である。これについては、継続的な検討を行っていくこととする。

本研究の成果は、就労選択支援の従業者の育成を検討する際の参考となるであろう。この就労選択支援が形骸化せず、有効な支援サービスとして実施されることを期待したい。

#### E. 健康危険情報

なし

#### F. 研究発表

〈論文発表〉

- 1) 前原和明 (2023) 就労アセスメントを活用した発達障害者の自己理解の支援. 地域ケアリング, 24(13), 56-59.
- 2) 前原和明 (2024) 就労アセスメントを活用した就労支援のあり方について. 地域ケアリング, 26(1), 38-41.
- 3) 前原和明 (2024) 発達障害者の就労支援のためのアセスメントの実践について－就労アセスメントについての基礎的理解－. 令和5年度 発達障害地域生活・就労支援者研修会テキスト, 79-100.
- 4) 前原和明・山口明乙香・野崎智仁・縄岡好晴・後藤由紀子・西尾香織・藤本優 (2024) 就労選択支援における従事者の養成研修のための標準プログラムの検討. 秋田大学教育文化学部研究紀要 教

〈学会発表〉

- 1) 武澤友広・前原和明・青山貴彦・吉田あおき・古野素子 (2023) アセスメントを活用した就労支援の今後のあり方について. 第31回職業リハビリテーション研究・実践発表会.
- 2) 前原和明 (2024) 本人中心の立場から展開する自己理解の支援. 日本職業リハビリテーション学会島根大会プレカンファレンス.
- 3) 金納健次郎・古田詩織・前原和明・本村達弥・甲斐大地 (2024) 私たち支援者は、人の可能性を捉えることができるのか!? ～就労支援におけるアセスメントとこれから～. 全国障害者就労支援ローカルネットワーク宮崎大会.

#### G. 知的財産権の出願・登録状況

なし